

戦争遺跡の親子見学会を開催

「市民の会」は8月2日、夏休み親子戦争遺跡見学会を催しました。初めての試みで、親子、祖父・孫など3組の参加がありました。白鳥中学校の浅尾悟先生の案内・解説により、鈴鹿市内の鈴鹿海軍航空隊跡、鈴鹿海軍工廠跡、陸軍第一航空軍教育隊跡、北伊勢陸軍飛行場掩体などを見て回りました。以下は参加した子どもたちの感想です。

夏休み親子見学会に参加して

鈴鹿市立飯野小学校6年 河村 証宏

鈴鹿市考古博物館の行事に参加して、夏休み親子戦争遺跡見学会があることを知りました。同じ日に工作教室があったので、そちらに行こうかと思ったのですが、戦争遺跡見学会の方を選び、お母さんと参加しました。参加して鈴鹿市のことについて大変勉強になりました。そして、僕たちの身近なところに戦争遺跡があったことに驚きました。

お母さんが鈴鹿市の西の方の生まれで、いつも通っているところに戦争遺跡が残っていることを初めて知り、何も知らずに通り過ぎていたところにあった戦争遺跡を見て、鈴鹿市の誕生の歴史や戦争があったことがよく分かりました。

実際に見たこと聞いたことや当日いただいた浅尾先生の資料を参考にして、夏休みの自由研究をまとめ、学校に提出しました。



【鈴鹿海軍航空隊正門跡】

「親子でめぐる鈴鹿市の戦争遺跡」に祖父と参加して

津市立千里ヶ丘小6年 横山 優太

鈴鹿市の人々が「夏休み親子戦争遺跡見学会」を催しましたので、マイクロバスに乗せてもらって市内の数か所を回りました。僕はお爺さんと参加しました。

鈴鹿はお隣の町で、僕たちの住んでいる河芸千里ヶ丘からは近くて、買い物などにしょっちゅう出かけますが、今まで何も知らずに過ごしていました。引率して下さったのは、鈴鹿の白鳥中学の浅尾先生でした。先生は大変丁寧にわかりやすく説明して下さり、ずいぶんいろいろのことを学びました。まず、鈴鹿市は1942年（昭和17年）12月1日に誕生したのですが、この日はちょうど軍都として出発した町だと初めて知りました。陸軍は鈴鹿川の北側、海軍は南側にありました。海軍と陸軍は全く別々に行動していて、普段は互いに交流がなかつ

たということです。海軍は鈴鹿の広大な面積を占めていました。まず、鈴鹿医療科学大学のあるあたりに飛行機の格納庫がつい最近までありましたが、もう壊してしまいました。本田技研のあたりには海軍工廠があり、着弾場跡が今も残っています。またその周辺には火薬工場があり、今もその一部が保存されて農家の人などが物置に使っています。

さて陸軍に戻りますが、北伊勢陸軍飛行場掩体（えんたい）がお茶畑の多い三畑町にあり、しっかり見せてもらいました。特攻隊などの飛行機を3機くらい隠すために作られたのですが、使わないうちに日本が降伏したのだそうです。掩体は登録有形文化財となっています。ずいぶん頑丈な鉄筋コンクリート製で、三重県にはこの一か所だけしかなく、日本国内にも数えるほどしか残されていないのだそうです。それにしても、まだ僕の今の年齢とそう変わらない若者が特攻隊で死へ飛び立っていったことを思うと、ここの掩体が使われないで済んだことで、何かほっとする思いでした。



【鈴鹿海軍工廠火管庄墳工場跡】



【北伊勢陸軍飛行場掩体】

「海軍」をテーマに社会科自由研究 ～見学会で学んだこと～

三重大附属中2年 米川かなでさん

鈴鹿市野町に住む三重大附属中2年、米川かなでさんは、夏休みの社会科自由研究のテーマに「海軍」を選び、その調査、研究の途上で市民の会のホームページを通じて親子見学会があることを知って、お母さんと一緒に参加されました。

米川さんが海軍をテーマにしようと思ったのは、ピアノの先生から広島のお土産といって、呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)の「海軍さんのカレー」と「海軍さんのコーヒー」をもらったことからです。先生のお父さんは海軍の軍人で、「父親の両手のある姿は写真でしか見たことがない」とその写真を見せてもらったそうです。二度と戦争が起きないように、戦争とはどんなことか調べ、考えようとの研究に取り組みました。その研究発表は①はじめに、②海軍とは、③郷土の海軍、④海軍さんの食事、⑤戦争体験談、⑥まとめ、の6項目から成り、大型のスクラップブック2冊約160ページにわたるものです。三重県社会科教育研究会主催の「夏休み社会科作品展」で最高賞の県教育委員会賞を受賞し、11月29、30の両日、津駅前のアスト津のギャラリーに展示されました。

見学会のことは③「郷土の海軍」の中に書かれています。自分で撮った写真をふんだんに使い、浅尾先生の資料と話を生かし、独自の調査も加えて報告しています。昭和20年7月28日にあった稲生町内の対空陣地の空襲に触れ、「私が今住んでいる稲生地区にもこんな悲しい出来事があり、3戸の家屋が全壊。16名が罹災していたとはびっくりでした」。「海軍工廠で働く人たちが全国から来ました。そのため、国民学校を戦争中に創設。それが今の飯野小学校だそうです」と浅尾先生の説明を記しています。

以下は、研究発表の中で「8月2日見学会に参加して」と締めくくった米川さんの一文です。

戦争遺跡見学会では、いくつかの建物や建物跡を見学させていただきました。貴重な写真や資料を見せてもらいました。私は見れば見るほど悲しくなりました。そして、それ以上に悲しく感じたのは、実際に兵隊に行かれた人の話やお父さんが兵隊に行かれた人の話でした。

外地の島へ行かれていたお父さんは特攻隊員だったそうで、船で移動する際、乗る船を間違ったので飛行機に乗ることができず、命は助かったのです。しかし、自分だけが帰ってきたことをとても恥ずかしいとあっていらして「お父さんはダメな人間だからお母さんのいうことをよく聞きなさい」と亡くなるまでおっしゃっていたそうです。そのお話を聞いて“お国のために”と思って衣食住や学問もがまんして兵隊さんとして努力されていたのに、一生心に大きな傷を受け、自分をせめつけていらしたなんて、と思うと言葉を失ってしまいました。そして「立派なお父さんだな」と思うと、ご苦労された兵隊さんこそが戦争遺跡のような気がしてきました。



市制72周年記念 ～講演と戦争遺跡の写真・パネル展～ 開催

市制72周年を記念した『講演と戦争遺跡の写真・パネル展』を椿公民館の協力を得て、12月1日(月)～6日(土)まで開催しました。最終日の6日には公民館のホールで、浅尾悟先生(白鳥中学校教諭)による講演会を開きました。その日は粉雪が舞う生憎の天候で参加人数は少なかったですが、椿地区の自治会長さんをはじめ、郡山町から約1時間かけて聴講にこられた会員の方もおられました。寒いなかありがとうございました。

今年は、椿地区を中心として大きな椿秘匿飛行場(追分飛行場)と、それに関連して多数の掩体壕が造られたこの地域の戦争遺跡を学ぶことを目的として、会場を椿公民館としました。これらの軍事施設は、終戦間近の本土決戦に向けて造られた施設の一つだそうで、浅尾先生の『椿秘匿飛行場と本土決戦』と題した講話は、当時の戦局と椿秘匿飛行場との関係が非常によく分かるものでした。当日、お持ちいただいた多数の資料も当時の様子が分かる非常に貴重なもので、多くの手間と準備ありがとうございました。

なお、『山本の昔いま』(山本町郷土史研究会・平成15年)には、当時の青年学校の思い出として、学校ではほとんどが飛行場作りの勤労奉仕だった様子がつづられています。



【写真・パネル展】



【講演会での展示品】

モニュメント着工 来年2月末完成予定

不戦への思いを後世に伝えていこうというモニュメント「地・天」の設置工事が12月から、鈴鹿市の防災公園内の一角で始まりました。来年2月末までに完成させて鈴鹿市に寄贈します。来春の同公園のオープンセレモニーに合わせ、除幕をする予定です。

このモニュメントは彫刻家で県立飯野高校教諭の三村力さんがデザイン。御影石の4本の柱の上方に、らせん状のステンレスパイプをめぐらせた高さ6.4mの大きな作品です。4本の柱は取り壊された格納庫の空間を、上に載る円環は鈴鹿の空を飛んだであろう戦闘機の航跡と平和への願いをイメージしたそうです。御影石の柱は38°角の高さ2.4m。宮崎石材（鈴鹿市深溝町）の手で造られ、12月9日から現地への設置工事が始まりました。ステンレスパイプは南条製作所（鈴鹿市広瀬町）が製造。年明けから取り付け工事をする予定です。

建立場所の用地は、防災公園内の、移動させた番兵塔と碧空の碑の隣に鈴鹿市が用意してくれました。制作費は署名に協力してくれた人たちなど全国に呼びかけ、約340件の個人、法人から募金をいただきました。鈴鹿市白子町にある国道23号線沿いの一帯には戦前、鈴鹿海軍航空隊（のちに鈴鹿海軍航空基地）がありました。それが戦後、電気通信学園（のちにNTT西日本研修センター）に払い下げられ、長年、研修施設として使われてきましたが、校舎は鈴鹿医療科学大学に売られ、大学をはさむ広大な敷地も開発されることになりました。大学の北側は鈴鹿市に売られて防災公園に、南側はNTTが住宅用地などにしたのですが、そこに旧海軍の巨大格納庫3棟が残っていたことから、私たちは軍都として誕生した鈴鹿市の象徴的施設としてその保存に取り組みました。署名を含む運動も空しく取り壊されてしまいましたが、鈴鹿市にもあった戦争の記憶と不戦の思いを次世代に伝えていこうと、象徴するモニュメントの建立を企画したものです。

「風の街の文化祭」展示会

鈴鹿ハンターセンターコートで10月26日（日）に開かれた恒例の「風の街の文化祭」に参加して、「戦争遺跡が語る鈴鹿の歴史」をテーマに写真パネル展示をしました。

この文化祭は今年で9回目になりますが、私たち市民の会が参加したのは、今度で4回目。パネル10枚の裏表を使い、鈴鹿海軍工廠、鈴鹿海軍航空隊、陸軍気象連隊、陸軍第一航空軍教育隊、北伊勢陸軍飛行場と施設別にざっと120枚の写真や地図を展示しました。鈴鹿市は2012年12月1日に市制70周年を迎え、来年には戦後70周年を迎えます。戦争の記憶が風化しつつあるいま、次の世代にどう伝えていくのかが問われています。大勢の人々が買い物で行き交うショッピングセンターでの開催は、日ごろ展示会に足を運ばない市民のみなさまにも気軽に見ていただき、鈴鹿市の戦争遺跡に関心をもって頂く機会となり、有意義な取り組みであったと思います。



鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>